



『IDGs 変容する組織』

新井範子 鬼木基行 佐藤彰 新宅剛 水野みち 著

経済法令研究会 刊

定価 2,090円 (本体1,900円+税)

持続可能な社会実現のために達成を目指すSDGsは国連の目標として周知されているが、IDGsという言葉はまだ耳慣れないという人は多いだろう。ジェンダー、地球環境、経済など多分野にまたがった社会課題解決策のSDGsに対し、IDGsはInner Development Goals（インナー・ディベロップメント・ゴールズ）の略で、個人の内面成長のための目標を意味する。本書はそのIDGsを詳説し、企業・団体における人材育成方法としての有効性を示している。知的な分析に裏付けされ、熱がこもった組織論だ。

本書によればIDGsとは、世界50以上の学術機関や組織がともに立ち上げた非営利組織の定義で、各国でSDGs到達に向けた動きが鈍化していることから、人間の内面成長の必要性が問われるようになり生まれた

とのことだ。「自分のありかた」「考える」「つながりを意識する」「協働する」「行動する」という5つに分かれた領域のそれぞれが、目標達成のための細かい計画枠組みを持つ。

企業・団体の経済活動継続には社会を考えた行動が肝要だ。そのためにはそこに属する個人の内面的成長が欠かせないというのは、不確実性が強い今の時代に合う思想だ。本書は富や権力よりも生きがいやつながりを求めるZ世代の若者層に企業・団体の設計を変更させる力があると見て、そんな彼らを理解して主体性や能力を伸ばす方法を丹念に説く。

企業・団体が人手不足などで行き詰まったときに慣行的な雇用のあり方にしか問題を見いださない私たちにとっては、雇用云々よりも人の内面を理解することの方が重要であるというのは真面目に受け止めるべきメッセージだろう。本書を読めば内省の大切さがひしひしと伝わってくる。（日本農業新聞 齋藤 花）